

The Tokyo Tanuki Times

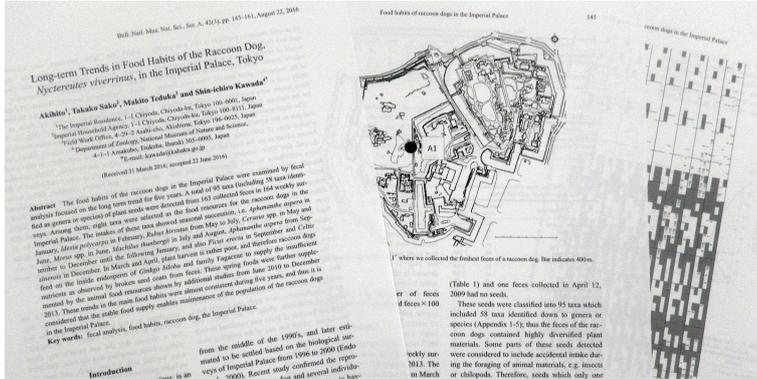
東京タヌキタイムズ

2016年12月号 通巻96号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2016

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

天皇陛下のタヌキ論文を読む 皇居のタヌキの食糧事情



論文のダウンロードページ

●2016年の論文 (国立科学博物館)

https://www.kahaku.go.jp/research/publication/zooology/v42_3.html

●2008年の論文 (CiNii)

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007185436>

・解説記事(宮本隊長執筆)

<http://ikimonotuusin.com/doc/594.htm>

2016年のタヌキ界最大の話題のひとつは間違いなく天皇陛下による皇居のタヌキの論文(“Long-term Trends in Food Habits of the Raccoon Dog, *Nyctereutes viverrinus*, in the Imperial Palace, Tokyo”、共同執筆)でしょう。陛下は魚類の研究者としても有名ですがタヌキにも関心を持たれているのです。

難しい英語ではありません

天皇陛下のタヌキ論文は今回が初めてではなく、2008年にも発表されています(「皇居におけるタヌキの食性とその季節変動」、こちらも共同執筆です)。両論文はネットで無料公開されていますので誰でも読むことができます。

今回の論文(以下、16年論文)は英語で書かれているので敷居が高いなあ、と思う方が多いでしょう。その場合は前回の論文をお読みすることをお勧めします。こちらは日本語ですし、時期や規模は異なりますが研究内容は同じようなものですので参考になるでしょう。16年論文も難し

い数式や理論などが出てくるわけはありませんので、辞書があれば大学生でも十分読めます。Google翻訳などでもおおよその意味はわかるでしょう。植物名(学名)は辞書には載っていないと思いますので、ネット検索で調べてみてください。

16年論文の概要は「5年間、タヌキのフンを毎週採取して、その内容物(主に植物種子)を調べました」というものです。タヌキは動物性のもんとしては昆虫を、植物性のもんとしては果実を好んで食べます。果実の種子は食べても消化されずにフンの中にそのままの形で残ります。それを調べればタヌキが何を食べたのかがわかるわけです。ちなみに昆虫の場合は脚などの断片がフンに混じっていますのでそこから種類を突き止めることができます。

16年論文によると果実の種子の上位はムクノキ、クサイチゴ、エノキ、イヌビワ、イイギリ、タブノキ、クワ属、サクラ属でした。タヌキは木に登りませんので、地面に落ちた果実を食べているようです。

さらに詳しい解説は別の場所で見ているのでこちらもぜひお読みください(上記参照)。

科学者としての天皇陛下

今年は天皇陛下ご自身のこともメディアで大きく取り上げられました。それぞれの人はそれぞれの視点から天皇陛下についてのイメージをお持ちだと思います。私から見た天皇陛下は「ひとりの純粋なサイエンティスト(科学者)」です。80歳を超えるご高齢でも科学的な好奇心・探求心をお持ちになられているというのは素晴らしい、そして驚くべきことでもあります。陛下は本当にサイエンティストなのだとは納得するのです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>